

図書館だより



京都市立九条中学校

図書館

令和6年度 10月号

10/27～11/9は読書週間です

連日、向かいの音楽室から合唱練習の歌声が聞こえていました。(図書館でもパート練習があり、びっくりしました。) グランドでは、行進練習のホイッスルの音がリズミカルに響いていました。図書館にいると、中学校の秋ならではの活気を耳からも感じられて、ほほえましく心和むひとときがあります。芸術の秋やスポーツの秋を存分に味わえる学校生活は、当たり前のように、その実とても貴重なもの。平和であること、健康であること、家族や仲間がいることに感謝しつつ、今このときを大切に過ごしてくださいね。



終戦まもない1947(昭和22)年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心とした2週間)と定められ、この運動は全国に拡がり現在に至ります。



いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、

大きく変容しようとしています。けれど、その使い手が人間であるかぎり、人間性を育むうえで、「本」が重要な役割を果たすことにかわりはありません。学習や部活動で忙しいみなさんも、ぜひ自分の暮らしの中に、「**本とつきあう時間**」をとりいれていきませんか。

ちなみに、『読書週間』が始まる10月27日は、「文字・活字文化の日」に制定されています。

もちづきまい ■ 望月麻衣さんのお話を聞いてきました

先日、望月麻衣さんのお話を伺う機会に恵まれました。北海道出身で、現在は京都にお住いの著名な作家さんです。代表作のライトミステリー『京都寺町三条のホームズ』を読んだ人も多いことでしょう。(この作品は京都本大賞を受賞し、現在21巻まで出版されています。)

その日の演題は「読者から創造者へ」～読書の好きな方、もしくは苦手な方も、小説を書いてみませんか？～ ご自身の実体験をもとにした親しみやすいお話しぶりに引き込まれました。そのお話を一部を紹介します。

leaf 面白い小説の条件って何だと思いますか？ 望月さんいわく、次の4点だそうです。

空欄【 】に当てはまることばを考えてみましょう。答えは図書館に掲示しておきますので、ぜひ答え合わせに来館し、望月麻衣さんの著作もぜひ読んでみてください！



クイズは裏面にあります

① [] がある。

ヒント：漢字なら1文字 ひらがななら2文字

これは小説の引力ともなり、ぐっと読者をひきつけます。

② 縦軸と横軸がある。

面白さは織りなされるもの。

例：「名探偵コナン」なら、黒の組織との戦い・新一と蘭の恋愛模様・日々起こる

事件で、物語が展開していきます。

③ [] が2つある。

ヒント：漢字1文字 見せ場ともいわれる

1つだと単調。 読後感に深まりがありません。

④ 集まる・集める。

アイテムを集めたり、精鋭や賢者が集まったりして、物語が進みます。

例：「南総里見八犬伝」では、玉を持つ八犬士が集まり、里見氏の危機を救います。

望月さんが、出身である北海道を小説の舞台にしない理由として、「当たり前すぎて、

なぜ北海道の良さなのか気づかない。けれど、京都に対しては鋭敏になれたから。」という内容

のことを話されました。ということは、私たちも身近な場所の良さに対して、鈍感になってい

るかもしれません。京都、南区、九条、東寺、…あって当たり前の場所を見つめなおすこと

で、新鮮な発見や感動が得られたらいいですね。（場所だけではなく、人にも物にも同様のことがありそうです。）

書き手の視線から垣間見た本の世界。読書に関わる視野が広がった講演でした。